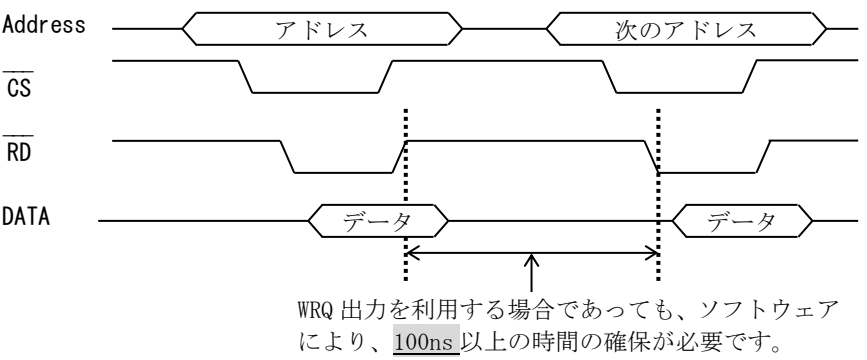


【正誤表】

「G9001A / G9002A 取扱説明書」(DA70131-1/3) の内容記述に誤記および不足がありました。
 下記のとおり、お詫びして訂正いたします。

－ 記 －

頁	訂正箇所	誤	正
III-10	1-2-1-3. 読み出しタイミング	<p>・下の図および説明文が不足</p> <p>③ WRQ 出力を使う（ウェイト機能がある）、かつステータスまたはFIFOリード</p>  <p>注1：リード処理を連続する場合でも、CPU の処理能力上 100ns 以上の間隔があいてしまう場合、ソフトウェアウェイトの挿入は必要ありません。 注2：ステータスリード または FIFO リード以外のアクセスの場合、WRQ 出力を利用してれば、ソフトウェアウェイトの挿入は必要ありません。 注3：WRQ 出力を利用しない場合は ①のタイミングでご使用ください。</p>	
III-8	<p>1-2-1. 通常のアクセス</p> <p>センターデバイスは9本のアドレス入力端子を持ち、512 バイト分のアドレス空間を占有できます。この各アドレスへのアクセス時のタイミングを示します。</p> <p>ウェイト機能を持つ CPU の場合、センターデバイスの WRQ 端子を接続、利用することで、これらタイミングを意識することなく使用することができます。</p> <p>しかしウェイト機能のない CPU では、IFB 出力を監視するか、以下に述べるタイミングを考慮する必要があります（必須）。</p>	<p>右の記述の下線部の説明文が不足。</p>	<p>センターデバイスは9本のアドレス入力端子を持ち、512 バイト分のアドレス空間を占有できます。この各アドレスへのアクセス時のタイミングを示します。</p> <p>ウェイト機能を持つ CPU の場合、センターデバイスの WRQ 端子を接続、利用することで、<u>ステータスリードおよび FIFO リード以外のアクセスに関するタイミング</u>を意識することなく使用することができます。</p> <p>しかし<u>ステータスリードおよび FIFO リード、または ウェイト機能のない CPU</u>では、IFB 出力を監視するか、以下に述べるタイミングを考慮する必要があります（必須）。</p>

頁	訂正箇所	誤	正
Ⅲ-9	1-2-1-3. 読み出しタイミング ② WRQ 出力を使う（ウェイト機能がある）	右の記述の下線部の説明文が不足。	② WRQ 出力を使う（ウェイト機能がある）、かつステータスおよびFIFO リード <u>以外</u>

以上。